

資金の流れが新興国に！

年金に関するニュースと言えば、ほとんどが「年金制度」に関するもので、年金が何で運用されているかは案外知られていません。

日本最大にして世界最大でもある超巨大年金組織の年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）は、2011年6月末現在、国内の債券・株式で約77.9%、外国の債券・株式は約19.6%（その内、外国株式については先進国株式のみ）という資産構成で運用しています。しかし近年は新興国株式投資への意欲を強めており、2011年度内にも外国株式の投資枠の一部を使い、新興国株式への投資を始めると発表しました。

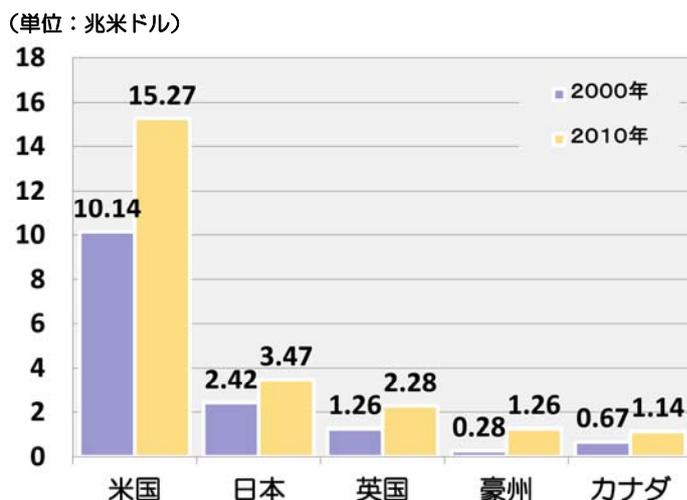
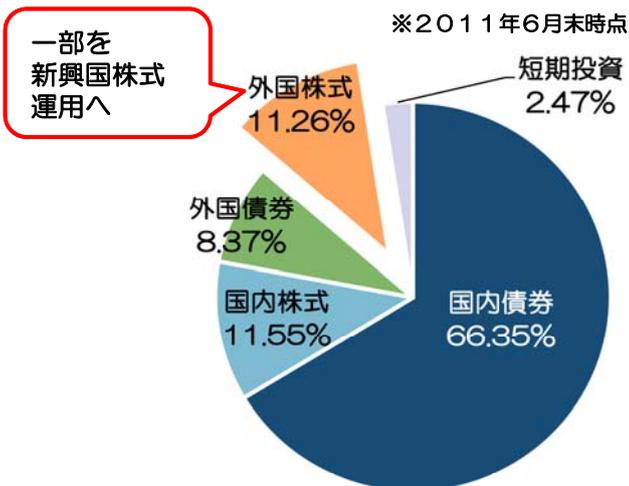
これは日本に限った話ではなく、欧米各国の年金基金も同様に新興国株式への投資比率を上げています。

これまで年金は安定的な運用を第一としていたため、新興国への投資はリスクが高いと考えられていました。しかし、年金は給付が予め決まっており、目標リターンが定められている中、先進国に限定した運用では目標のリターンを満たすことができなくなってきました。そこで、リターンが最も期待できる新興国株式への投資が検討されているのです。

世界の年金基金の資産総額が増加傾向にある中、日本をはじめ、各国の年金という長期投資前提の巨大マネーが新興国株式に流入していくことで、今後更なるマーケットの拡大が期待されます。

日本の年金基金運用割合

主要国の年金基金額



(出所) 年金積立金管理運用独立行政法人

(出所) タワーズワトソン



Asset Management

本資料は、情報提供を目的としてゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社(以下「弊社」といいます。)が作成した資料であり、特定の金融商品の推奨(有価証券の取得の勧誘)を目的とするものではありません。本資料に記載された過去のデータは将来の結果を保証するものではありません。本資料は、弊社が信頼できると判断した情報等に基づいて作成されていますが、弊社がその正確性・完全性を保証するものではありません。本資料に記載された市場の見通し等は、本資料作成時点での弊社の見解であり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更する場合があります。本資料の一部または全部を、(I)複写、写真複写、あるいはその他いかなる手段において複製すること、(II)弊社の書面による許可なく再配布することを禁じます。<審査番号:60173.OTHER.MED.OTU>
© 2011 Goldman Sachs. All rights reserved.